



土岐市の未来を考える 平成26年度

市長と語る会



平成26年11月4日から12月12日にかけて「市長と語る会」を市内各所で開催しました。4年目となる今年度は、昨年度を上回る9団体からの要請を受け、399人の市民の方に参加していただきました。

☎ 総合政策課（内線212）

【意見と回答】

■ 総合病院について

意見 >> 医師不足、経営状況について、地域住民も不安を抱いている。今後の見通しは？

市長 >> 全国的にも医師が不足しているため、地方の病院は医師の確保が困難になっています。同様に、総合病院も医師が不足しており、このことが経営面における赤字増加の原因の一つになっています。今後は、東濃圏域全体で地域医療の確保をどのようにしていくかを考える必要があります。また、経営改善のために直営や指定管理といった経営形態も含めた病院の縮小や再編など、あらゆる手段を講じる必要があると考えます。

■ 人口減少について

意見 >> 国は「地方の再生・創生」と言っているが、市の人口は減ってきている。この人口減少に対してどのように考えているか。

市長 >> 人口減少には二つの要因があります。一つ目は、出生率の低下です。子どもを育てたくなるような環境や、女性にとって子どもを産みやすい環境をつくるのが大切であると考え、国を挙げて少子化問題に取り組んでいるところです。二つ目は、社会動態によるものです。転入者よりも転出者が多いため市の人口が減っています。人は仕事がある所に移動するので、市内に働く場所をつくるのが解決策の一つになると考えます。

■ 新庁舎について

意見 >> 今後もずっと使っていく施設なので、税収も人口も減っている現状を踏まえて、無駄にならないように作ってほしい。

市長 >> 新庁舎の建設については、検討委員会を設置し意見を伺う予定です。その上で適切な規模や候補地を決定していきます。現在、資材などの価格や人件費が上昇しています。市場動向を見極めて建設を行いたいと考えています。

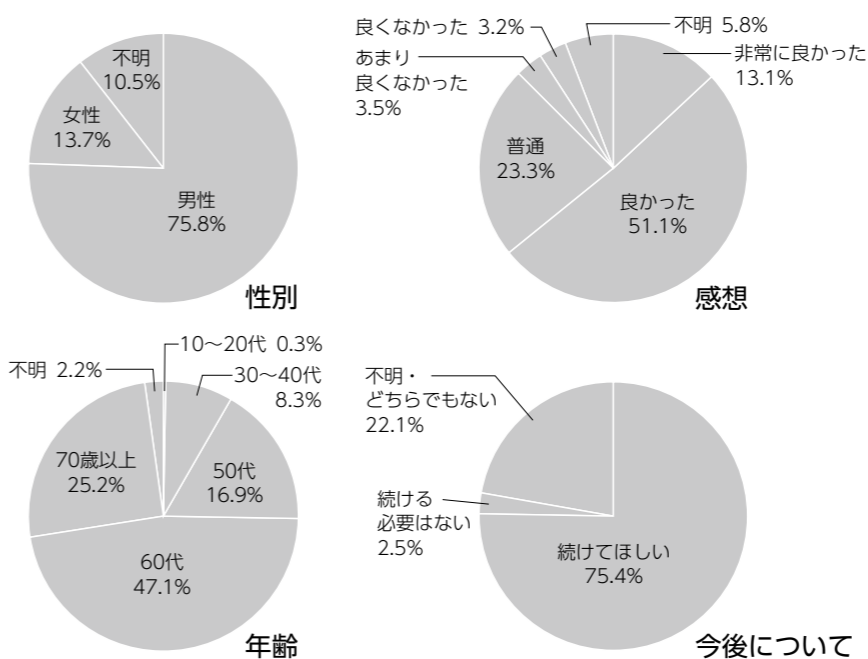
意見 >> 新庁舎の建設費用は、市民に対して税金という形での負担となるのか。それとも過去の蓄え（基金）で対応するのか。

市長 >> 建設費用については、基金と市債（借金）を予定しています。新庁舎は将来にわたり使用していくものになるので、世代間の負担を公平にするため、建設費の一部を市債で賄います。その市債を返済していくことで将来の市民にも建設費を負担していただきます。建設時の市民の方だけに負担していただくようなことはしません。



※市長と語る会の説明資料、議事録やアンケート結果の詳細は、
【市ホームページ > 市政情報 > 市長と語る会】からご覧いただけます。

【参加者の声（アンケートより）】



■ アンケートの結果から

6割以上の方が「良かった」と回答しており、75%の方が「今後も続けてほしい」と回答しています。参加者のうち、50歳以上の男性が多数を占めています。今後はもっと、女性や子育て世代の方の声を伺いたいと思います。



40代女性

人口がだんだんと減り、高齢化しています。老いていくと不安、不便さを感じるようになります。子どもにもお年寄りにも住みよいまちづくりを期待します。



70歳以上男性

総合病院は高齢者にとって大切な所なので、ぜひ続けていただくようお願いしたい。



30代男性

他の市民の皆さんがどうしているのかを知ることができ良い経験になった。より幅広い年齢層が参加し、市の将来のことを語るができるようになれば良い。



60代女性

このような場に初めて出席しました。市政の話市長から直接聞くことができ良かったと思います。紙面を読むだけでなく話を聞くことで、市長の考えが良く分かりました。